

◆ 今週のコメント

- ・ 手足口病の定点当たり報告数は、1.59(65例)で、依然として過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では、1歳(15例)、2歳(10例)の順に多く、1歳～5歳が69.2%(45例)を占めています。
- ・ 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、0.98(40例)となっています。先週より減少しましたが、依然として過去5年平均値を大きく上回っています。

◆ 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例あり、本年の累積報告数は23例となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 23例】
- ・ 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 8例】
- ・ 五類:梅毒(晩期顕症) 1例(第28週追加分)【1月以降の累積報告数 3例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.51	103
	② 手足口病	1.59	65
	③ ヘルパンギーナ	1.15	47
	④ 流行性耳下腺炎	0.98	40
	⑤ 水痘	0.76	31
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

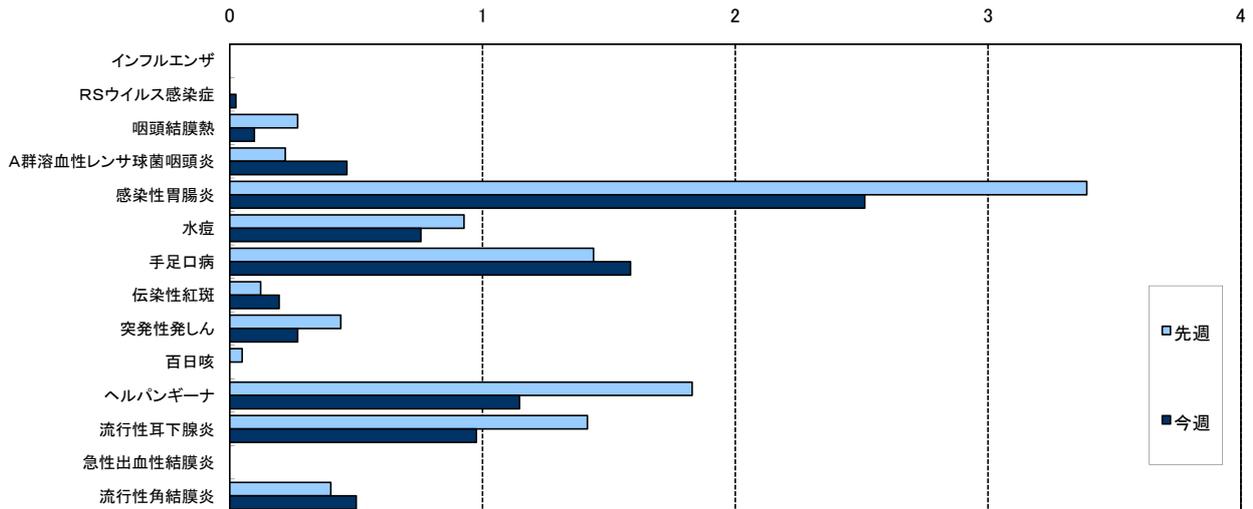
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

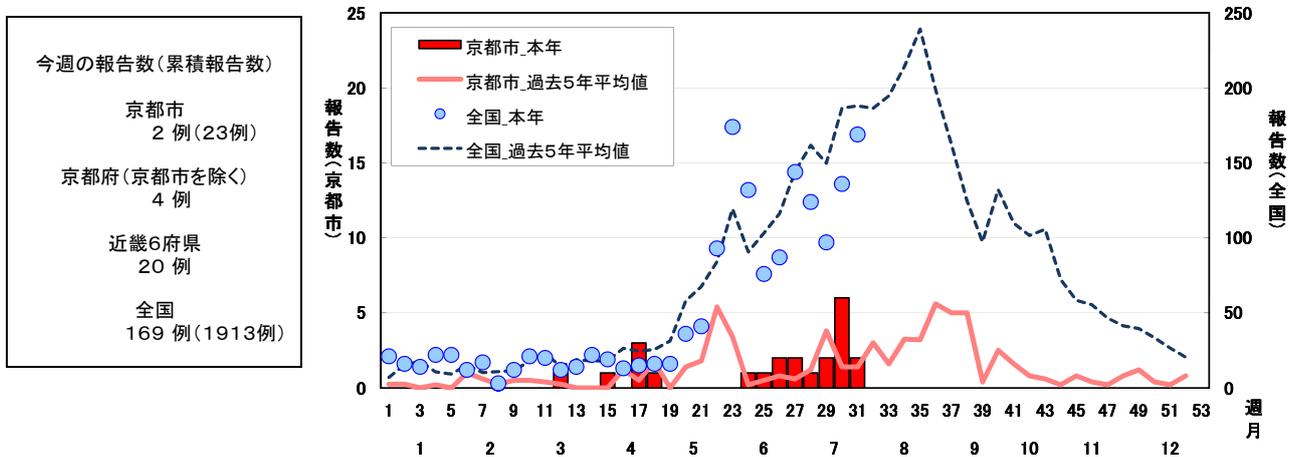
(注) 京都市のデータは、平成22年8月12日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第31週)と先週(第30週)の定点当たり報告数の比較

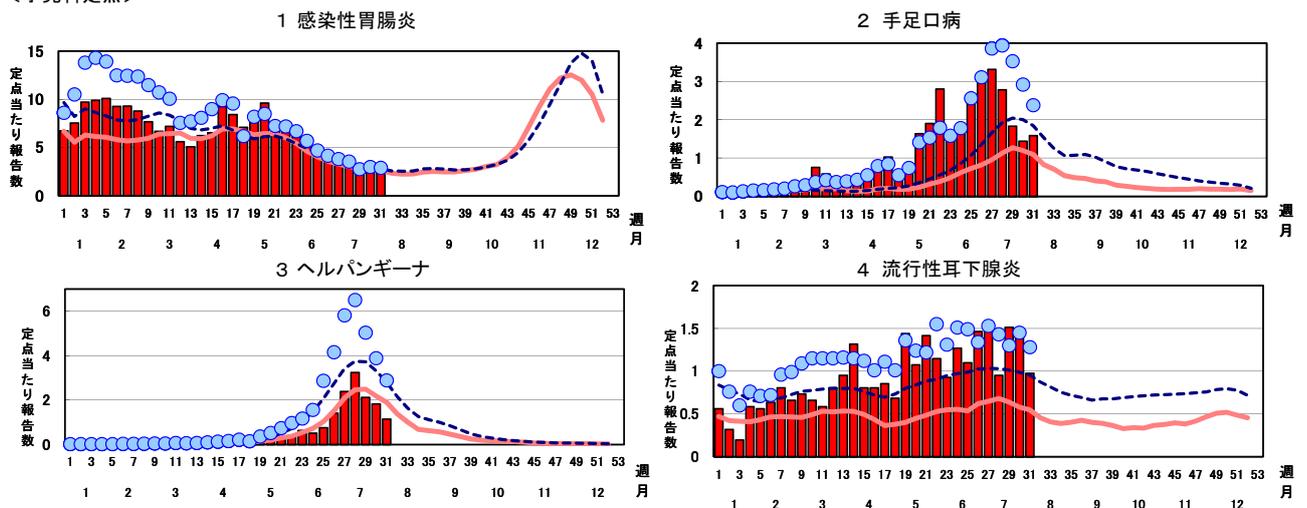


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

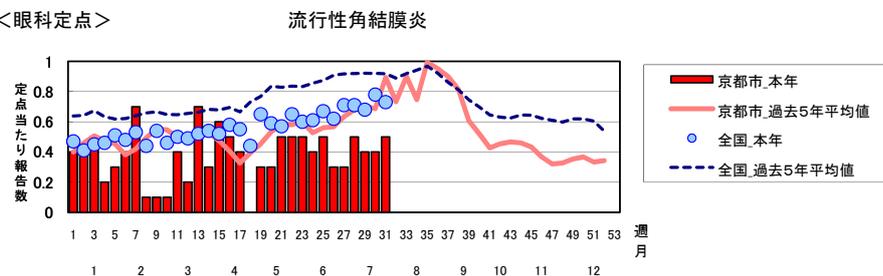


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



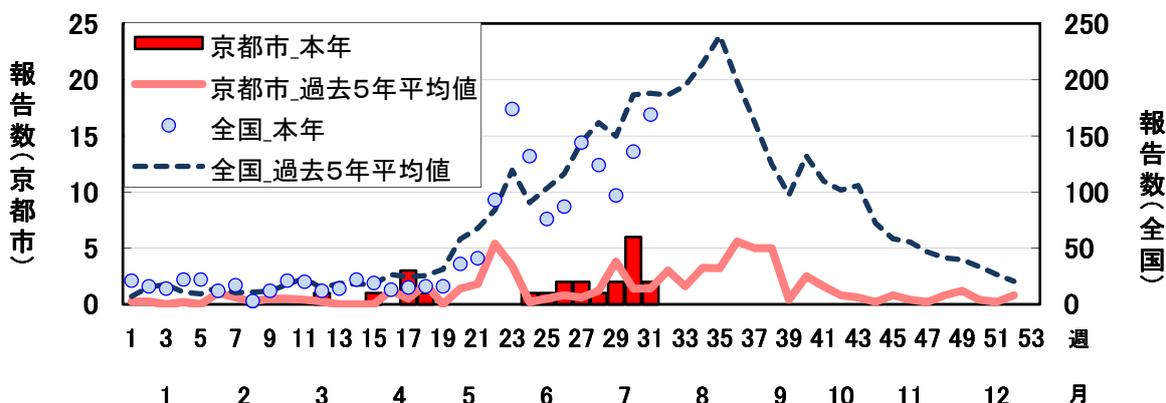
第31週(8月1日～8月8日)トピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例(女性・70歳代, 男性・10歳代)あり, 24週(6月14日～20日)から連続して報告があります。

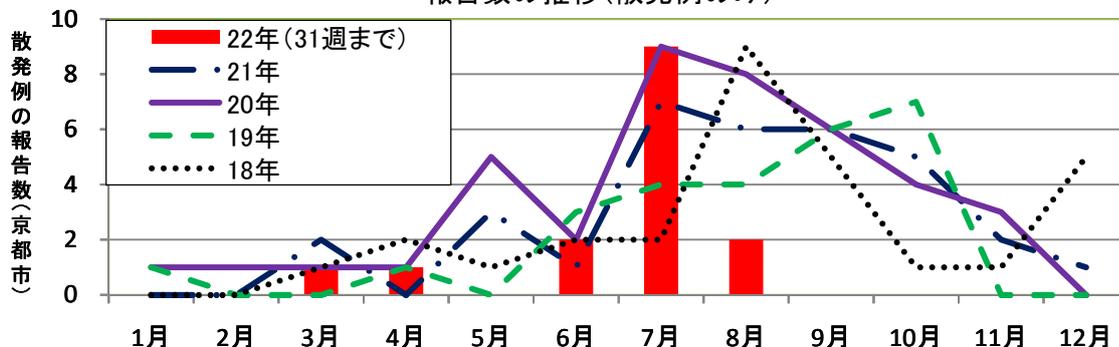
本年の累積報告数は23例で, 10歳代が12例, 20歳代が6例, 30歳代が2例, 50歳代が2例, 70歳代が1例で, 血清型別では, O157が20例, O111が1例, O26が1例, 不明が1例となっています。

集団発生を除いた散発例のみでは, 夏から秋にかけて発生が多くなっており, 年齢階級別にみると, 本年(15例)は, 10歳未満の報告がなく, 10歳代～20歳代の合計が80%(12例)を占めています。

本市及び全国の報告数の推移



報告数の推移(散発例のみ)



年齢階級別報告数の推移(散発例のみ)

